

「住用の宝」は「島の宝」・・・「島の宝」は「世界の宝」・・・
 ～奄美に住む私たちの手で奄美の自然を守ろう～

令和四年七月二十七日（水）南日本新聞掲載



世界の宝 守り継ぐ

「奄美・沖縄」世界自然遺産登録から1年の26日、情報発信などの拠点施設となる環境省「奄美大島世界遺産センター」（奄美市住用）がオープンした。開館と遺産登録1周年を記念した式典があり、住民や関係者が「世界の宝」を守り継ぐ決意を新たにしました。

（1面参照）

式典で同省の中川康洋政務官は「関係機関と一体となって環境保全に取り組む」とあいさつ。塩田康一知事は「施設を活用し、保全と観光利用が適切に行わ

奄美大島世界遺産センターのオープンを祝う地元住民ら

26日、奄美市住用

「奄美世界遺産センター」開館

れることを願う」と話した。行政関係者のテープカットや地元住民のくす玉割りなどで祝った。

センターはカヌー体験ができるマングローブパークに隣接。近くには、国指定特別天然記念物アマミノクロウサギを夜間観察できる市道三太郎線、新たな観光スポットとして検討が進む役勝エコロードがあり、一体的な活用が期待される。館内の展示室ではシイの林や溪流など島の森林環境を模型や映像で再現し、ク



ズーム

奄美・沖縄の世界自然遺産

奄美大島と徳之島、沖縄県の沖縄島北部と西表島の4島。登録区域は4万2698㍓。亜熱帯照葉樹林にアマミノクロウサギなど絶滅の恐れがある固有種が数多く息づく生物多様性が評価された。日本で5件目、屋久島に続き鹿児島県2件目の世界自然遺産。国内唯一、複数の同遺産がある。

ロウサギなど動植物135種を剥製などで紹介。森林散策を疑似体験できる。

新型コロナウイルス禍の3度目の夏を迎え、奄美の入り込み客は回復傾向にある。観光客の人氣が金作原国有林に集中し、生態系への影響が懸念される。動植物の島外持ち出しやノネコなど外来種対策、希少種の交通事故死といった課題も山積している。（木下瑛司）

奄美の自然に興味をもつ人が増えるのはうれしいことですが、そのために考えないといけない問題があります。

世界自然遺産（令和3年7月26日）になって一年がたち、奄美の自然を守るために遺産センターもできました。オープンの記念に新納莉穂さんと華穂さんが出席しました。